

外国語教育メディア学会 (LET)
第 86 回 (2015 年度秋季)
中部支部研究大会

プログラム

日時：2015 年 11 月 7 日 (土) 9:30-17:00
場所：金沢学院大学 2 号館および 2 号館 B 棟
〒920-1392 石川県金沢市末町 10

会場校実行委員長：坂東貴夫 (金沢学院大学)
会場校実行副委員長：大滝宏一 (金沢学院大学)

主催：外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部
後援：石川県教育委員会、金沢市教育委員会、北國新聞社



問い合わせ先
メール：支部サイト
<http://www.letchubu.net> の「お問い合わせ」
外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部事務局

Twitter: @LETChubu

日程

9:30 受付 【2号館4階 エレベーター前 (CALL教室前)】
9:30 展示 【2号館4階 241LL教室前】

10:00-10:10 **開会式** 【2B501講義室】

司会：尾関修治（中部支部副支部長）

主催者挨拶：高橋美由紀（中部支部支部長）

開催校挨拶：水洞幸夫（金沢学院大学文学部長）

10:20-11:40 **講演** 【2B501講義室】

Promoting English Use Through Digital Badges

講師：Gordon Bateson（高知工科大学）

司会：大滝宏一（金沢学院大学）

講師紹介：坂東貴夫（金沢学院大学）

This presentation will examine the use of the digital badges to support and encourage the use of English by students inside and outside the classroom, and thus transform a school or university into an "English-village". An English-village is an English-speaking community composed mainly of non-native English speakers who wish to improve their English communicative competence. The community is situated around a geographical location in the real world, such as a school or university campus. Some institutions, such as Kinki University and Osaka Jogakuin University, have implemented versions of the English-village concept, but generally these have been done without online support, and none so far has incorporated Mozilla's recently developed implementation of digital badges, known as "open-badges" (<http://openbadges.org/>), for recognizing and recording learning achievements. This presentation will look at examples of the use of digital badges in education, and then describe some examples of English-villages. After briefly examining the digital badge functionality of current learning management systems (LMS), the presenter will then illustrate how an online support system for an English-village might look and behave. Finally the presenter will demonstrate a proof-of-concept online course for tracking achievements in English-speaking situations. It has access and completion conditions on activities to (1) ensure sequential access through the course content, (2) denote which activities have been completed, and (3) award digital badges automatically when the entire course is completed.

11:40-13:00 **昼食**

展示等ゆっくりご覧下さい。【2号館4階 241LL教室前】

11:50-12:50 **ランチオンプレゼンテーション** 【243室】

賛助会員の10分間プレゼンテーションが行われます。昼食を取りながらご参加ください。

11:50-12:00 NEC マナジメントパートナー

12:00-12:10 ピアソン・ジャパン株式会社

12:10-12:20 株式会社アルク教育社

12:20-12:30 チエル株式会社

12:30-12:40 株式会社 VERSION2

12:40-12:50 株式会社エル・インターフェース

13:00－14:10 **研究発表・実践報告**

<第1室> 【243室】 (1)13:00～13:30 (2)13:40～14:10

司会：早瀬光秋（三重大学）

- (1) 教育的処遇の組み合わせによるリスク分散
－数理的基盤とモンテカルロ・シミュレーション－ [研究発表]
草薙邦広（名古屋大学大学院，日本学術振興会特別研究員）
- (2) Introduction of Peer-review to the Project-based English Program:
Students' perceptions of effects of peer-review process [実践発表]
辻香代（立命館大学 びわこくさつキャンパス）

<第2室> 【244室】 (1)13:00～13:30 (2)13:40～14:10

司会：小島ますみ（岐阜女子短期大学）

- (1) 日本人英語学習者のスペリング力と英文読解力の関係
－判断課題タスクを焦点に－ [研究発表]
吉川りさ（名古屋大学大学院・日本学術振興会特別研究員）
梁志鋭（東京女学館大学）
- (2) カリキュラム・ニーズ対応型英語語彙学習 e-ポートフォリオ
－開発とその応用可能性－ [実践発表]
田中洋也（北海学園大学）
浦野研（北海学園大学）
大西昭夫（VERSION2 Inc.）

14:20－15:15 **ワークショップ1 【2B501 講義室】**

新しい英語教育における CAN-DO 評価について

講師：高橋美由紀（愛知教育大学）

西尾由里（岐阜薬科大学）

司会：石川有香（名古屋工業大学）

本ワークショップは、小・中・高校・大学の教員、あるいは教職課程や将来英語教育に携わりたいとお考えの方々を対象としています。現在、英語教育の流れとしては、言語到達レベルを包括的に記述していき、教師・学習者ともに、何ができるようになったかということ記述していくという CAN-DO チェックリストを構築し、評価していくということを行うようになっていきます。元々は、欧州協議会が 2001 年に言語到達レベルを段階的に記述したヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) を発表しました。CEFR には、A1～C2 まで 6 レベルを設定し、言語の 4 技能（「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」）それぞれについて詳細な能力記述文があります。日本でも、その流れを受け、2013 年に文部科学省が『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』を発表しました。また、投野（2013）は CEFR を日

本の英語教育の枠組みに適用し PreA-1 から C2 まで 12 レベルに分けた CEFR-J を構築しています。本ワークショップでは、日本の英語教育に適した CAN-DO リストをどのように作成することができるか? について、参加者とともに、リストを作成するワークショップを行います。特に、コミュニケーションの基礎とも言えるリスニング・スピーキング（スピーチ、インターアクション）等を中心に扱います。

15:25-16:45 **ワークショップ 2 【2B501 講義室】**

研究報告入門：研究結果をどのように報告するか

講師：草薙邦広（名古屋大学大学院／日本学術振興会特別研究員）

司会：石川有香（名古屋工業大学）

本ワークショップは、以下のような方々を対象としています。(a) 卒論や修論として研究をまとめる、(b) 日頃の教育実践について学会で発表したいが、敷居が高く見える、(c) 査読者に、統計についてあれこれいわれるけども、よくわからない。

現在の外国語教育研究では、統計改革とよばれる運動によって、研究手法がめまぐるしく高度化しています。このような状況下では、研究結果をどのようにまとめ、どのように学会で発表したり、論文に執筆するべきか、明確な指針はなかなか見えません。

そこで、本ワークショップでは「自らの教育実践について学会で発表する」という想定を題材に、以下のような話題に触れながら、時勢に沿った研究報告について、参加者のみなさまといっしょに考えを深めたいとおもいます。

- (a) 統計改革によって、何がどのように変わったか
- (b) 適切な記述統計とデータの可視化
- (c) 研究結果の公開だけでなく研究過程公開の時代
- (d) 学会発表の TIPS とさまざまな研究支援ツール
- (e) 剽窃、研究倫理、著作権、セルフアーカイビングなどについて

17:00 **解散**

懇親会にご参加されます方は、本学を 17:15 出発のバスにお乗りください。

18:30-20:30 **懇親会**

【醜庵】（金沢市堀川町 4-1 セントラルビル 1F・BF）

TEL：076-263-5858

<http://www.daian.ne.jp/shop/index.html>

司会：西尾由里（岐阜薬科大学）

開催校挨拶：坂東貴夫（金沢学院大学）

研究発表概要

<第1室>

発表1 教育的処遇の組み合わせによるリスク分散

—数理的基盤とモンテカルロ・シミュレーション— [研究発表]
草薙邦広 (名古屋大学大学院、日本学術振興会特別研究員)

これまでの外国語教育研究では、ある教育的処遇の成果は、結果変数（成績）における時系列間の比較（事前—事後）、ないし処遇後における群間（統制群—処置群）の中心傾向を比較することによって検証されてきた。しかし、結果変数における中心傾向の変化（効果）は、教育的処遇がもたらす一部の情報でしかない。たとえば、結果変数における散布度をもって、教育的処遇がもつ「リスク」を検討することもできる。ここでいうリスクとは、(a) 処遇の結果の集団内における均質性、(b) 中心傾向の再現可能性などを示す。本研究では、教育的処遇がもつリスクの数理的な評価方法を概観したうえで、教育実践において、リスク回避をするために、複数の処遇を適切に組み合わせる指導計画をすること（リスク分散）が有効であることを、モンテカルロ・シミュレーションによる数値例をもちいて示す。発表では、対面授業と ICT 授業のブレンデッド・ラーニング、主に ICT に関わる適性処遇交互作用といった話題をとりあげながら、リスク分散がもたらしうる教育実践への貢献について考察する。

発表2 Introduction of Peer-review to the Project-based English Program:

Students' perceptions of effects of peer-review process [実践発表]
辻香代 (立命館大学 びわこくさつキャンパス)

With the need for a written communicative competence in a globalized environment, the EFL writing activity has drawn the attention of other EFL writing courses and language educators over the last few decades. The researcher, a lecturer of Project-based English Program, considers a peer-review an applicable classroom activity to improve writing skills on the part of Japanese EFL students. They have little knowledge on how to handle the argumentative style of L2 writing. To address the weakness, peer-review guidance worksheets were uniquely constructed as a resourceful methodology.

This study explores students' perceptions of the effects of the peer-review process. Specifically, the researcher investigates the efficacy of the guidance worksheets on the development of students' awareness to content issues in English texts: how expository writings should be organized and developed. She also examines students' perceived achievements in the process.

<第2室>

発表1 日本人英語学習者のスペリング力と英文読解力の関係

—判断課題タスクを焦点に—

[研究発表]

吉川りさ (名古屋大学大学院・日本学術振興会特別研究員)

梁志鋭 (東京女学館大学)

英文を理解するためには、英語のスペリング規則を理解し、一つひとつの単語を認識し処理する必要がある。英語スペリング規則を理解するには単語の正書法的、音韻的、形態的理解が必要となる。本研究は、55名の日本人大学生英語学習者におけるスペリング力と読解力の関係を調査し、どのようなスペリングに関する知識が読解力に影響を与えるかを検証した。スペリング力テストには単語の正書法判断、形態的・音韻的情報処理、文脈判断の3種類の判断課題を、読解力テストには時間制限付き読解問題を使用した。回帰分析の結果、テキストを効率良く読み進めるためには、正書法上の制約および音韻・形態的理解といった単語レベルでのつづりを素早くかつ正確に認識する能力が重要であることが明らかとなった。

発表2 カリキュラム・ニーズ対応型英語語彙学習 e-ポートフォリオ

—開発とその応用可能性—

[実践発表]

田中洋也 (北海学園大学)

浦野研 (北海学園大学)

大西昭夫 (VERSION2 Inc.)

外国語語彙学習は、学習者の自律・継続的な取り組みとそのための教育者の支援が重要な分野である。中学校・高校で約3,000語を学んできた日本人大学生英語学習者が、未知語に妨げられずにテキストを理解できる語彙知識である6,000~7,000語(話し言葉)や8,000~9,000語(書き言葉)を身につける場合、学習者は教室の内外において学習を継続する必要がある。また、学習者は、教育機関のカリキュラムに沿って、ある特定分野の語彙知識の習得を求められる場合もある。発表者らは、これまで、学習者の自律・継続的語彙学習を支援するためのe-ポートフォリオ、Lexinoteを開発し、その運用と研究を行ってきた。本発表では、各カリキュラムの学習目標となる語彙リストに対応できるように改修したLexinoteの概要とその教育実践について報告する。さらに、今後、多くの教育機関と学習者のニーズに対応するための具体的方策についても議論する。

賛助会員展示

株式会社アルク教育社

<http://www.alc-education.co.jp/>

株式会社エル・インターフェース

<http://www.supereigo.com>

チエル株式会社

<http://www.chieru.co.jp/>

ピアソン・ジャパン株式会社

<http://www.pearson.co.jp/>

株式会社VERSION2

<http://ver2.jp/>

NEC マナジメントパートナー

<http://www.neclearning.jp/opic/>

株式会社教育測定研究所

<http://jiem.co.jp>

昼食

- ・当日は学内の食堂やコンビニは休業です。（飲料の自販機は1階・5階にあります。）
- ・大学最寄りのコンビニには、徒歩で10分程度かかりますので、ご昼食を持参されることをお勧めします。
- ・金沢駅構内にはハートインがあります。また、ドンクやジャーマンベーカリーでパンなどを買うこともできます。10時以降は金沢駅構内の金沢百番街が利用できます。
- ・金沢駅周辺にもコンビニ（サンクス、ローソン等）があります。

懇親会

【醍庵】（金沢市堀川町4-1 セントラルビル 1F・BF）

TEL：076-263-5858

<http://www.daian.ne.jp/shop/index.html>

厳選された食材を使った美味しい料理を気軽に楽しめます！

参加費：3000円（飲み物代含む）

- ・事前申し込み方法：下記のURLでお申し込みください。

URL：<http://www.letchubu.net/modules/eguide/event.php?eid=61>

席数が限られておりますので、事前の申し込み【11月4日（水）まで】をお勧めいたします。定員に満たない場合は、当日でのお申し込みも可能です。

*なお、名古屋方面にお帰りの方は、20時6分発の米原行き【しらさぎ】から新幹線【こだま】で名古屋までのご利用が便利です。

その他の情報

- ・荷物置き及び控え室は5階257室です。スーツケース等おいていただいて構いませんが、必ず貴重品はお持ちになってください。
- ・1階・5階の自動販売機そばには椅子・机が併設され休憩できる場所がありますので、ご利用ください。

大会参加のご案内

■会員の方の参加は無料です（ご参加までに、年会費をご納入ください）。

■非会員の方は当日会員参加費1,000円を受付にてお払いください。

LET 中部支部サイト：<http://www.letchubu.net>

本大会サイト：<http://www.letchubu.net/modules/xpwiki/?第86回支部研究大会>

新規ご入会案内

LET 会員として入会手続きをしていただきますと、当日会員参加費から無料になります。会員になられますと、LET 全国研究大会、支部研究大会（年2回）での研究発表、紀要への投稿などをして頂くことができます。

- ・当日会員参加費として1,000円をお支払い下さい。
- ・LET 本部サイトにて入会登録をしてください（仮会員）。
- ・仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます（お支払いいただいた当日会費参加費1,000円を割引きます）。
- ・年会費をお支払いいただきますと、正会員になります。

会員登録、会員情報の更新はこちらから

LET 本部サイト：<https://www.j-let.org/>

大会会場アクセス

JR 金沢駅からのバス情報

往路

金沢駅東口 3 番乗り場 (18 番系統 : 本多町経由金沢学院大学ゆき)

7:50、8:03、8:13、8:33、9:13、9:53

7 番乗り場 (11 番系統 : 橋場町経由金沢学院大学ゆき)

7:50、8:25、9:25、10:40

復路

金沢学院大学前 (18 番系統 : 本多町経由金沢駅ゆき)

15:15、15:55、16:35、17:15、17:55、18:35 (最終バス)

片道 420 円、所要時間 45 分

北陸鉄道バス : URL : http://www.hokutetsu.co.jp/route_timetable

車でおいでになる方は、正面玄関入って、左手に駐車場がありますが、案内係の案内に従ってください。しかしながら、駐車場は限られておりますので、公共交通機関をお使いください。

